



し しん かい
志真会 会報 2025
 5月発行

滑川市議会議員

令和7年度が始まり、皆様におかれましてもお忙しい日々をお過ごしのことと存じます。さて、我々志真会は、正副議長を輩出する最大会派として、これまで以上に市民の皆様の声に真摯に耳を傾け、より良い街づくりに邁進するとともに、政策提言にも積極的に取り組んでまいります。本年は4年任期の最終年であり、この4年間の集大成として、会派一丸となり粉骨砕身活動してまいり所存です。今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

市議会におきましては、3月度定例議会にて令和7年度の当初予算が議案通り全会一致で可決されました。この予算の内容を市民の皆様にご理解いただくこと、そして予算が適正に執行されているかを監視することも、我々市議会議員の重要な責務であると考えております。

本年度の予算

当初予算としては、昨年度よりも増え過去最大
 一般会計 147億9,302万円 (前年度+9億2,423万円 +6.7%) となりました。
 特徴として市側は3つ掲げています。

- ① 多様な人のチャレンジと、共創・イノベーションによるまちづくりの推進
- ② 市民が健康に暮らし、新しいつながりを広げていくまちづくりの実現
- ③ 光り輝く次世代に向け、人材を育成し、魅力を継承していくまちづくりの推進としており、予算1億円以上の新規重点事業が以下の通りとなっています。

☆DX^{※1}推進として

市基幹系システムの標準化 (ガバメントクラウド^{※2} への移行) 2億6,780万円

☆SDGs推進として

公共施設証明、街灯のLED化改修 1億7,552万円

☆公共施設の改修として

旧タラソピアの解体、関連設備の移設 1億9,500万円
 あいらぶ湯給湯設備更新工事 1億2,740万円
 中央監視設備更新工事 (水道事業) 1億7,850万円
 浄化センターオキシレーションディッチ槽等改築更新 (下水道事業) 1億4,700万円

※1 DX とは「デジタルトランスフォーメーション」の略称で、直訳すると「デジタル変革」という意味です。デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変革することを指します。

※2 ガバメントクラウドとは、行政に関わる業務システムを統一されたクラウド上に集約、共通化・標準化した上で監視運用できるようにした政府共通のサービス利用環境の事です。

以上が、令和7年度一般会計の当初予算の1億円以上の事業でございます。この他にもお伝えしたいことがありますので、私たちを見かけましたらお声がけいただけたらと思います。また、皆様のご意見等も多くお聴きしたいと思っておりますので何卒よろしくお願い申し上げます。

竹原正人 議員



議長の仕事

3月定例会では、令和7年度の予算と令和6年度の補正予算が上程されましたが、議長は議会の運営を円滑に進めるため、議場での質問はできません。そこで、会派の代表質問や一般質問に私の質問したい事項を盛り込んでもらいました。再質問など議場での議論が足りないと感じた答弁等は予算特別委員会や常任委員会で再議論をしました。また、議長として、各種団体等から出席要請のある各種会合や総会、懇親会などにも積極的に参加し交流を深めています。時節柄、年度末と年度初めは何かと総会が多く、昼夜問わず参加しています。これからも多くの市民の皆様と交流しながら滑川市の発展のため頑張っております。



児童館に時計・インクルーシブ遊具が設置されました。

谷崎潤一 議員



議会で質問した内容

3月定例会では、滑川市が令和7年度に取り組む SDGs 推進事業内の、小水力発電導入可能性調査・公共施設等への太陽光発電設備等導入可能性調査・公共施設への再生可能エネルギー提供 (滑川産電力の地産地消)・公共施設や街灯の LED 照明改修工事や防犯対策としての防犯カメラについて質問させていただきました。全国的に見ても滑川市における農業用水を利用した小水力発電はパイオニアであり、小水力発電事業者が所有する発電施設は現在3施設が稼働しています。再生可能エネルギーで公共施設の電力を賅えないか、小水力発電事業者に尋ねたところ、そのうち1施設が (滑川産電力の地産地消) 供給可能と伺い、令和5年度・令和6年度の定例会にて滑川産電力の地産地消を提案させていただき、4月15日の新聞記事の通り令和7年度より「滑川産の電力」供給が始まる運びとなりました。また、令和6年度定例会で公民連携による小水力発電事業の提案もさせていただき、令和7年度小水力発電導入可能性調査という形で建設に適した場所の調査が始まります。

今後も滑川市のゼロカーボンシティに必要な質問だけではなく、防犯対策や暮らしやすい街づくり、災害に強い街づくりに向けた質問や提案をさせていただきます。



青山幸生 議員



代表質問

3月定例会では、大きく5つの項目について会派代表質問をしました。

1. 官民連携・実証促進事業について

新年度の地域力創造アドバイザー活用業務に560万円が計上され、外部専門家について質問しました。市は2名を招聘予定で、1名は観光、ふるさと納税、地元企業と学生の連携プログラム、地域起業家育成を支援することです。また、公民連携による実証事業補助金の詳細と将来像も問いました。この補助金は、市が設定した地域課題に対し、民間事業者が独自ノウハウで解決に取り組む事業を対象に、補助率2分の1、上限20万円が想定されています。地域の多様な課題解決に繋がる事業として、その効果に期待しています。外部専門家と公民連携補助金が、地域活性化にどのように貢献するのか、注視してまいります。

2. DXに関する予算について

基幹系クラウドサービス経費2億6,780万円が計上されています。毎年多額の経費がこのDX化で予算化されていますが、令和3年度からのDX化関連予算の総合計はいくらでしょうか。また、今までの経費は埋没原価にならないかとの質問には「これまで多くのシステムに関して、県内のほかの市町村と共同調達、共同利用を行うことで費用の節減に努めていますので埋没原価にはなりません」との答弁を受けました。ちなみに、本市の令和3年度から令和7年度までのデジタル関連予算の総合計は11億円程度となっています。

その他、本市の除排雪の在り方については、残念ながら紙面の都合上載せられませんでした。また、YouTubeの動画でご確認いただけたら幸いです。今後も市民の皆様の期待に応え、市政発展に全身全霊で取り組みます。引き続き、ご理解ご協力をお願いいたします。

3. 公共交通の利便について

オンデマンド交通実証実験事業費に関するスケジュールについて、令和7年度の冬頃の実証運行開始を予定しており、引き続き検討協議を重ねているとの答弁がありました。準備作業としては、オンデマンド運行システム提供事業者の選定、運行業務の委託、車両の導入、運行区域の設定、および区域内の住民との意見交換などを順次進めていく予定とのことでした。

加えて、滑川中学校に通う南部小学校区の生徒に対して、冬期間のバス運行を強く要望したところでした。

4. 子供たちの教育環境の整備について

PTAについて滑川市教育委員会はどのような立ち位置と考えているか。また役員について考えることはあるかには教育長が「PTAは子どもの健やかな育成のための社会教育関係の団体です。これまでも地域や学校において大変重要な役割を果たしておられると認識しています。担い手不足の対応に苦慮されていることも承知しています。今後も進めていかれる取組においては助言その他必要な協力を行っていきたいと考えています。」との答弁でした。未来を担う子どもたちのために、先生と保護者が心を一つにして、より良い教育の環境を育んでいけるよう、共通の想いを大切にしていきたいと改めて感じました。

安達真隆 議員



議会で質問した内容

3月定例会では、主に3つの質問を行いました。1点目は放課後児童クラブについてです。市内では東加積小学校のみが空き教室を利用していますが、南部・寺家・北加積・田中小学校でも同様の実施を求めました。教育委員会事務局長からは、空き教室の活用は難しく、専用出入口の確保も課題との答弁でしたが、今後も小学校の空き教室利用に向け、問題解決に尽力します。2点目は地区公民館の整備です。施設を快適に利用できるよう、優先される修繕内容を尋ねるとともに、中加積地区公民館の傾きへの対策を質しました。当局からは、危険箇所を最優先に対応し、中加積地区公民館は改めて状況調査を行うとの回答でした。地域の大切な公民館の早期修繕に向け、引き続き働きかけます。3点目は交通安全施設整備についてです。市道の白線消失と予算半減の理由を質問しました。産業民生部長からは、前年度の予算減額は市道滑川中央線の引き直しによるもので、白線引きは重要と認識しているとの答弁がありました。しかし、多くの市道で白線が見られないため、引き続き市当局に改善を強く求めます。市民の皆様の声も、ぜひ志真会メンバーにお寄せください。市政に届けられるよう努めます。

吉森真人 議員



議会で質問した内容

3月定例会では、大きく4点について質疑を行いました。①「滑川イノベーション推進事業費について」の「誰一人取り残されない情報伝達サービス事業」は、スマホ難の高齢者約20名へ触らなくても使えるタブレットを導入し、市や町内の情報提供や家族連絡を支援する実証実験であり、その詳細と来年度以降の計画を確認しました。②「DX推進事業費について」。昨年度から実施されたDXサンドボックス事業予算は、デジタル技術の活用を早期に取り組むため、用途を定めずに予算枠として200万円を設けています。昨年度の実績を確認しましたが、急を要していると感じられず本予算の妥当性に疑問を呈しました。③「不登校児童・生徒について」。不登校になる理由は各人各様であり、対応も様々ではあるのですが、この理由のとらえ方が、「先生」と「児童生徒・保護者」ではかなりの違いがあると調査結果が出ています。その点を先生に認識してもらい意識改革を促す質問を行いました。④「HPVワクチンの男性任意予防接種」。昨年からの要望してきた結果、本年度から実施決定。接種普及のため、男性への必要性を保護者へ啓発するよう市との連携を協議しました。今回の3月定例会では、市民の皆様の生活に深く関わる4つの重要課題について質疑を行いました。引き続き、これらの課題解決に向け、真摯に取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。